



1

2023年度 夏季実施研修

国際部主催

- 南イリノイ大学
- グリフィス大学
- ヨーク大学
- オストラヴァ大学
- 檀国大学
- FPT大学
- ベトナムインターンシップ
- オーストラリアインターンシップ
- ケニアボランティア
- ナレスアン大学 (n 不足)

WLC主催

- イースト大学研修 1 期
- イースト大学研修 2 期
- イースト大学研修 3 期

経営学部主催

- GPカナダ (n 不足)
- GPオンライン (n 不足)
- GPコリア

2

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

2

■ 測定する「17の尺度」および「7領域」

i. 妥当性 (Validity Scales)

- Consistency (一貫性): 類似又は同一の内容を測っているが表現の異なる質問項目に対する、回答の一貫性
- Congruency (適合性): 統計的に推定できる回答パターンとの、回答の一致の程度

【高】・【低】と表示した尺度はフスケールスコア (BEVIが測定しようとする「中心的な本質」の全体スコア)算出の際の重み付けに利用
BEVI自体はスコアの高低について価値判断をしない(例えば宗教)。ただし、大学また教員は価値判断を行う (EX: 14のスコアが高い人はジェンダーの考えが保守的)

ii. 形成的因子 (Formative Variables)

1. Negative Life Events (人生における負の出来事): 困難な子ども時代、問題を抱えていた両親、人生における葛藤/苦悶、多くの後悔

iii. 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)

2. Needs Closure (欲求の抑圧): 不幸な生い立ち/生活史、いさかいの多い不安定な家族構造、物事が起こる原因・状態の原因についてのステレオタイプの思考/筋が通らない説明
3. Needs Fulfillment (欲求の達成) 【高】: 経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い/思いやり
4. Identity Diffusion (アイデンティティへの否定的な度合い): アイデンティティの危機、結婚生活/家族生活についての否定的宿命論、自分や将来に対する「否定的な」感情

iv. 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)

5. Basic Openness (基本的な開放性) 【高】: 基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直
6. Self Certitude (自分に対する確信) 【低】: 強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する、深い分析を好まない

v. 批判的思考 (Critical Thinking)

7. Basic Determinism (決定論・必然論的性向) 【低】: 差異/行動について簡潔な説明を好む、人は変わらない/強者が生き残ると信じている、苦勞の多い生活史
8. Socioemotional Convergence (社会・情動的理解): 自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない

vi. 自己の理解・アクセス (Self Access)

9. Physical Resonance (身体への共鳴): 身体的欲求/感情の受容、経験主義、人間性/進化の影響を評価する (例: 「私は自由な精神の持ち主だ」、「私の体は私の感情に敏感だ」など)
10. Emotional Attunement (感情の調整) 【高】: 感情に動かされやすい、傷つきやすい、社会的、愛情を求めている、親和的、愛情表現に価値を置く、家族関係が親密
11. Self Awareness (自己認識) 【高】: 内省的、自己の複雑性を受け入れる、人の経験/状態を気遣う、難しい思考/感情を許容する
12. Meaning Quest (意味の探求): 物事の意味を模索する、人生にバランスを求める、耐性がある/根気が強い、感受性が高い、弱者への思いやり

vii. 他者の理解・アクセス (Other Access)

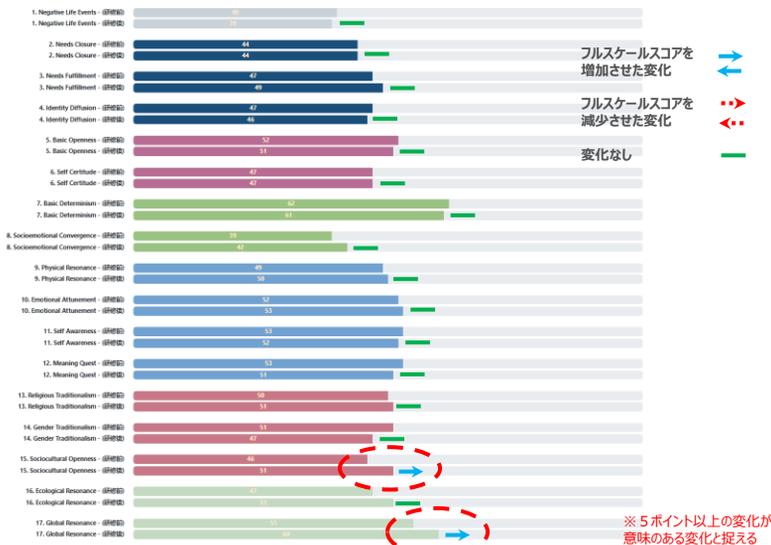
13. Religious Traditionalism (宗教的伝統主義、信仰心) 【低】: 宗教心があつて、自己/行動/出来事を神/霊的な力によるものとする、「来世」を信じる
14. Gender traditionalism (ジェンダー的伝統主義) 【低】: 男性と女性はある型にはまるよう創られている、伝統的/単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む
15. Sociocultural Openness (社会文化的オープン性) 【高】: 文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治の分野におけるさまざまな行動、政策及び実践について進歩的オープンである

viii. 世界の理解 (Global Access)

16. Ecological Resonance (生態との共鳴) 【高】: 環境/持続可能性の問題に深く関与している。地球/自然界の将来を懸念している
17. Global Resonance (世界との共鳴) 【高】: さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶこと/出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる

3

AY2023 夏季海外研修の平均値 (N=197)

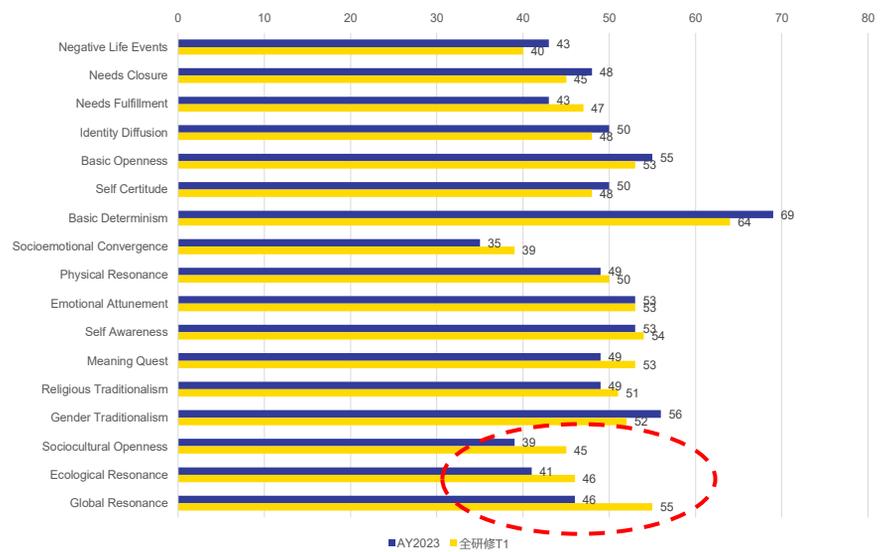


4

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

4

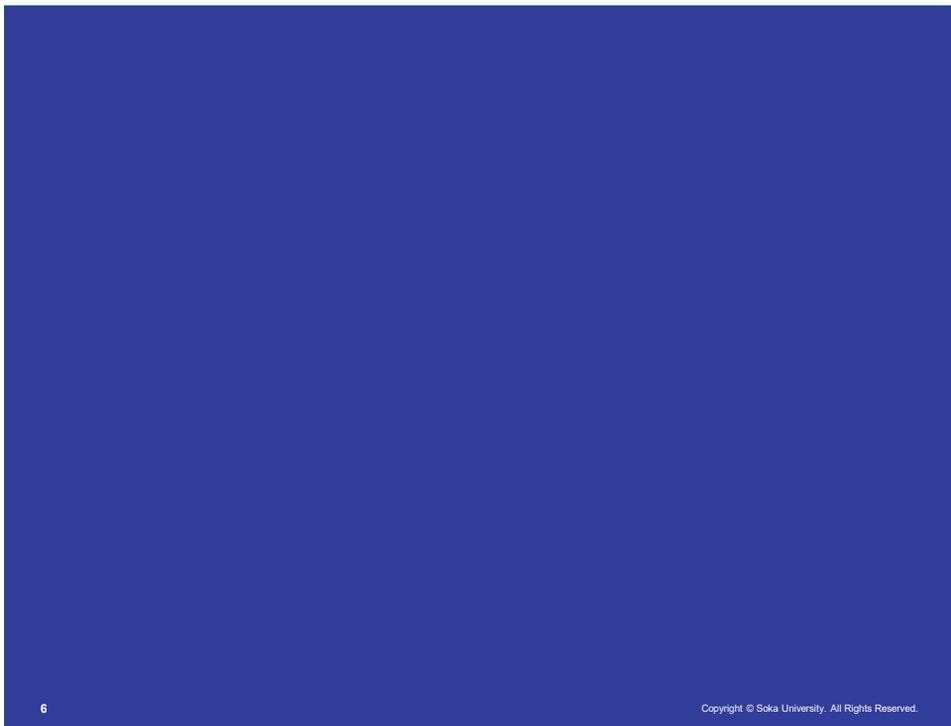
「AY2023新入生」と「AY2023夏季海外研修参加者」の比較



5

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

5



6

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

6

各プログラムのBEVI結果

7

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

7

グループ平均（まとめ）

- 色付けされている尺度が、フルスケールスコアと呼ばれるものであり、BEVIが測定しようとしている、基本的な開放性、異文化への許容性、宗教的また社会的実践、ステレオタイプな思考の許容（またはその否定）、「自己」と感情認識、また他の人々や文化がなぜそのよう¹に行動するの²かを説明しようとする思考パターンなどの「**中心的な本質**」の全体スコアをあらわします。
- **緑色**が変化がなかった尺度、**赤色**がフルスケールスコアを減少させた尺度、**青色**がフルスケールスコアを増加させた尺度を表します。
- フルスケールスコア以外の尺度については、すべて一律で黒色になっています。

8

8

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-1.1）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
南イリノイ大学	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
グリフィス大学	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
ヨーク大学	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が増加した。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考が強くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)

9

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-1.2）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
南イリノイ大学	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)
グリフィス大学	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)
ヨーク大学	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)

10

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-2.1）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
オストラヴァ大学	自身の生い立ちが困難であったとの認識が強くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が弱くなり、弱者を氣遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)
檀国大学	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を氣遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
FPT大学	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を氣遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

11

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-2.2）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
オストラヴァ大学	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
檀国大学	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
FPT大学	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)

12

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-3.1）

研修名	② 形成的因子 (Formative Variables)	③ 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④ 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤ 批判的思考 (Critical Thinking)
ベトナム インターンシップ	自身の生い立ちが困難であったとの認識が強くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧するようになった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが増加した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が強くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
オーストラリア インターンシップ	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が増加した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
ケニア ボランティア	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)

13

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-3.2）

研修名	⑥ 自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦ 他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧ 世界の理解 (Global Access)
ベトナム インターンシップ	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
オーストラリア インターンシップ	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)
ケニア ボランティア	・身体的欲求を受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

14

グループ平均 WLC主催研修（まとめ-1.1）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
イースト大学 1期	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化はなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
イースト大学 2期	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
イースト大学 3期	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

15

グループ平均 WLC主催研修（まとめ-1.2）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
イースト大学 1期	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)
イースト大学 2期	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
イースト大学 3期	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)

16

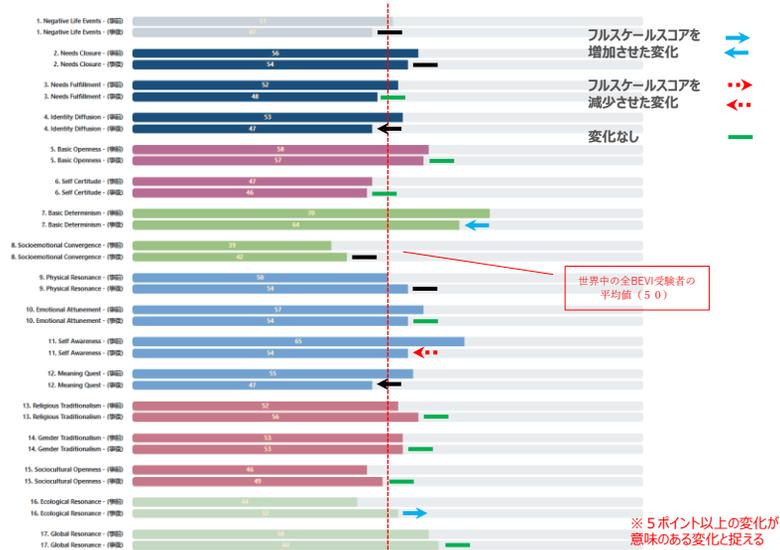
グループ平均 経営学部主催研修（まとめ）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
GPコリア	自身の生い立ちが困難であったとの認識が強くなった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧するようになった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が増加した。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を氣遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
GPコリア	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入るようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

17

南イリノイ大学研修（Aggregate Profile）（N=18）

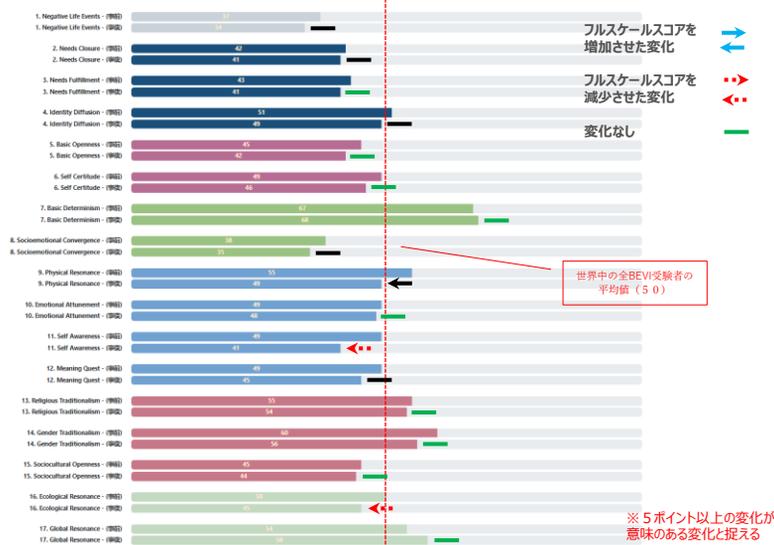


18

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

18

グリフィス大学研修 (Aggregate Profile) (N=23)

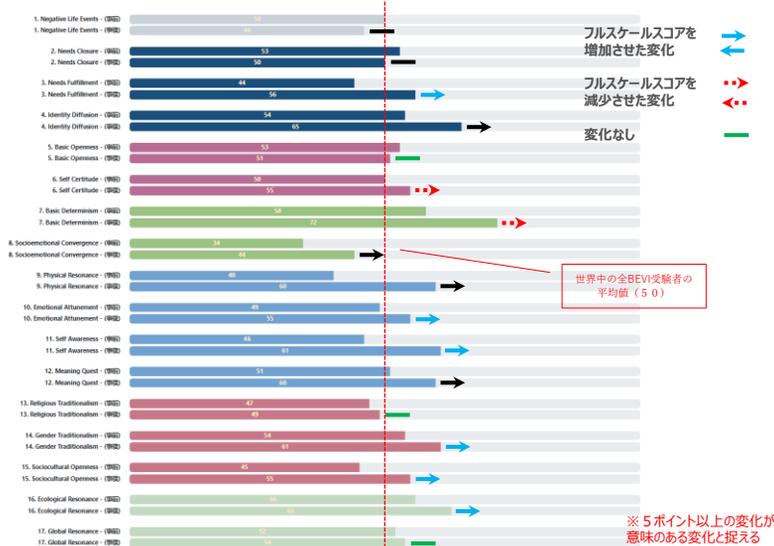


19

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

19

ヨーク大学研修 (Aggregate Profile) (N=8)

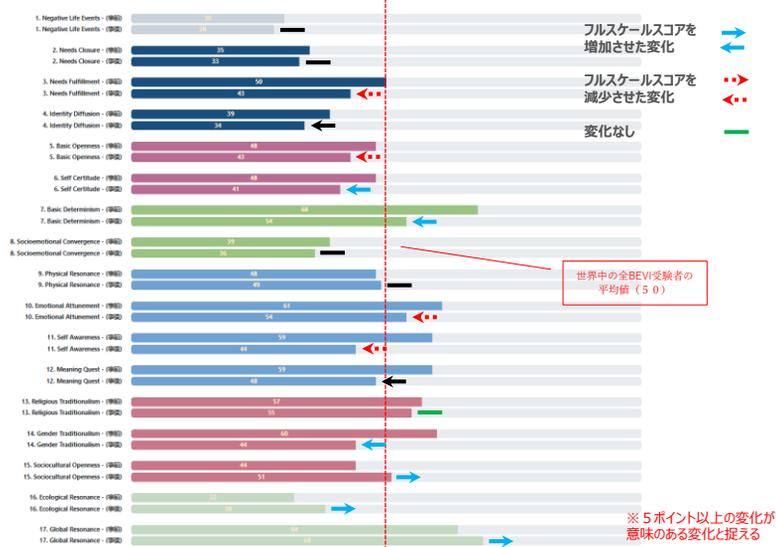


20

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

20

檀国大学研修 (Aggregate Profile) (N=11)

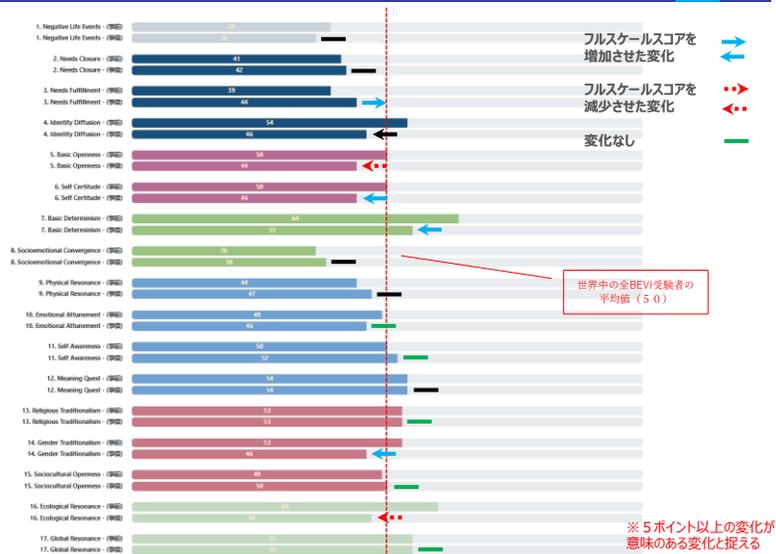


21

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

21

FPT大学研修 (Aggregate Profile) (N=12)

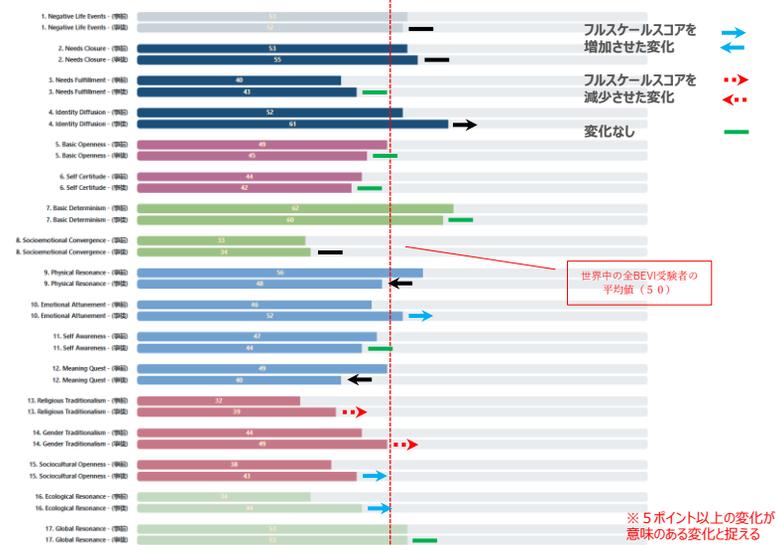


22

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

22

オーストラリア・インターンシップ (Aggregate Profile) (N=13)

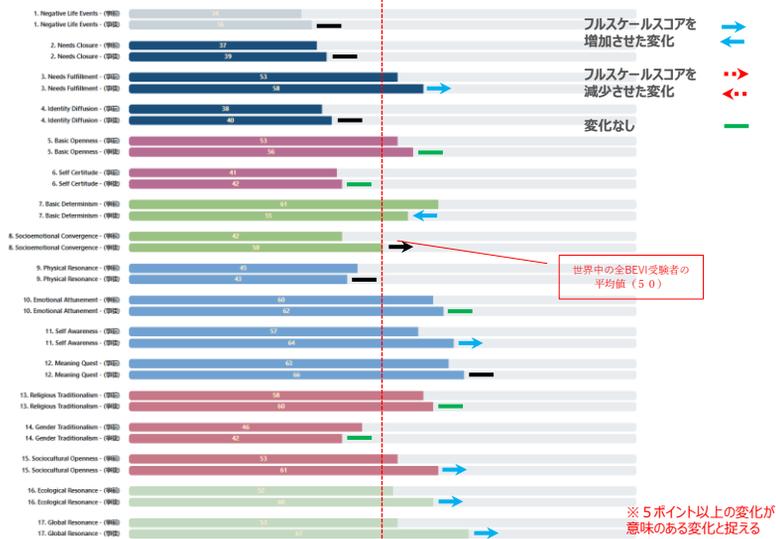


23

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

23

ケニア・ボランティア (Aggregate Profile) (N=17)

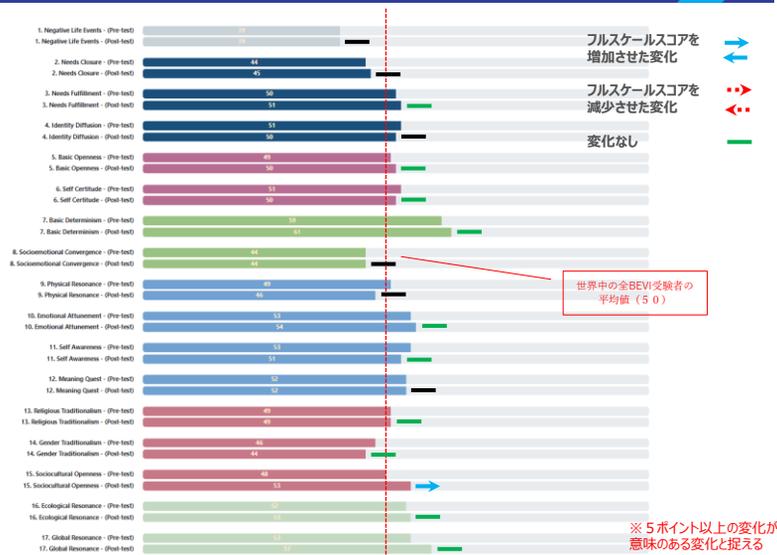


24

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

24

イースト大学 1期 (Aggregate Profile) (N=29)

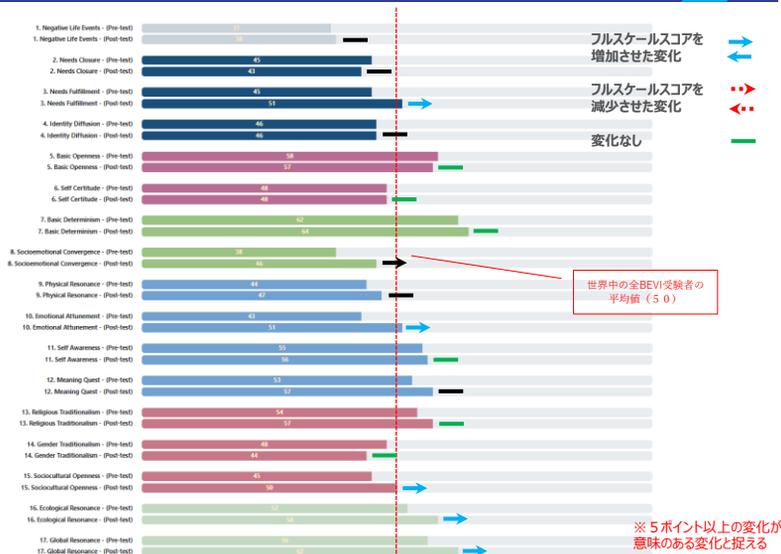


25

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

25

イースト大学 2期 (Aggregate Profile) (N=29)

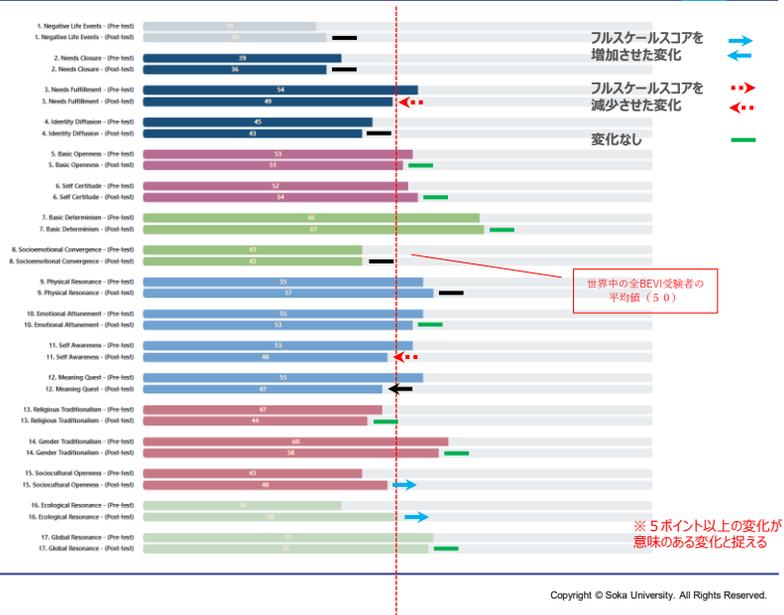


26

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

26

イースト大学 3期 (Aggregate Profile) (N=19)



27

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

27



28